

TOTO

シャワーバー
シャワーバー(水栓なしタイプ)TMGG95EC型
TMGG95EC 1型

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1-1

安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があることを示しています。

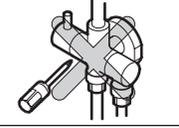


は、してはいけない「禁止」内容です。
左図は、「分解禁止」を示します。



は、必ず実行していただく「強制」内容です。
左図は、「必ず実行」を示します。

警告

禁止	湯水を逆に配管しない 水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。	
	給湯温度は85℃より高温で使用しない 85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。	
分解禁止	この説明書に記載された項目以外は、分解・改造しない 破損して、やけど・けがをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。	
必ず実行	目盛りどおりの湯が出るよう、必ず温度調節を行う 使用条件によっては目盛りどおりの湯が出ず、やけどをすることがあります。	

警告



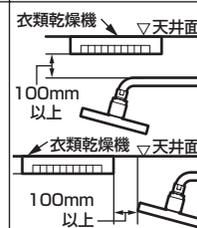
必ず実行

フィルターの掃除をする際は、いきなりふたをゆるめずに、必ず止水栓を閉めてから行う
また、本体左側および湯側取付脚が熱くないことを確認する
高温の湯が出て、やけどをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。



シャワーバーは衣類乾燥機の温風吹出口および空気吸込口から100mm以上はなして取り付ける

消防法第九条に基づく市町村条例基準により、浴室用衣類乾燥機が設置してある場所へのシャワーバー取り付けには、下記のような防災上の規制がある地域がありますので、不明な点は所轄の消防署など行政官庁にあらかじめご相談ください。
(例) 東京消防庁設置基準
「温風吹出口および空気吸込口の100mm以内に衣類を含め、一切のしゃべい物がないこと」



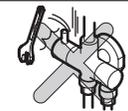
注意



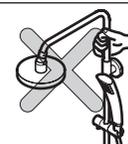
禁止

強い力や衝撃を与えない

破損して、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。



シャワーバーを手すりとして使用したり、ぶら下がったり、シャワーハンガーに登ったりしない
滑ったり、外れたりしてけがをするおそれがあります。また、故障や水漏れの原因になります。



必ず実行

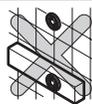
取り付け完了後、シャワーバーにガタツキがないことを確認する

シャワーバーにガタツキがあると、シャワーバーが外れたり、壁が壊れたりして、けがをするおそれがあります。



注意

取り付けの壁に段差のないことを確認する
商品がガタついたり、接続部から水漏れする原因になります。



ねじは必ず指定の本数で固定する
壁が壊れたり、商品が外れてけがをするおそれがあります。



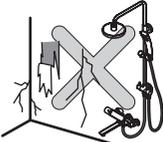
取り付けの穴の周囲に必ずシーリング剤を塗布する
シーリング剤を塗布しないと、壁裏へ水が浸入し、シャワーバーが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。



必ず強度のある壁・建築構造体に取り付ける

取り付けの際は必ず取り付け可能な壁であることを確認してください。壁の強度が不足していると、商品が外れたり、壁が壊れたりしてけがをするおそれがあります。システムバス・ユニットバスで壁の材質がわからないときは、システムバス・ユニットバスメーカーにお問い合わせください。

浴室壁材		取り付け可否
在来浴室	木下地	○
	コンクリート下地	○
ユニットバス および システムバス	0.4mm以上の鋼板の壁 塩ビ鋼板複合パネル、HQパネル、QCパネルなど	○
	その他<例>タイル、プラスチック、天然大理石など	×



必ず実行

●TMGG95EC型の場合

警告



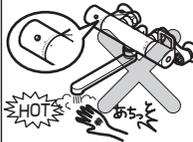
禁止

湯水を逆に配管しない
水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。



必ず実行

目盛りどおりの湯が出るよう、必ず温度調節を行う
使用条件によっては目盛りどおりの湯が出ず、やけどをすることがあります。



フィルターの掃除をする際は、いきなりふたをゆるめずに、必ず止水栓を閉めてから行う
また、本体左側および湯側取付脚が熱くないことを確認する
高温の湯が出て、やけどをしたり、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



仕様

給水・給湯圧力	使用必要水圧	0.1MPa (流動時)
	最高水圧	0.75MPa (静止時)
使用最高温度	サーモ本体部	85℃以下
	シャワー部	60℃以下
使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水	
使用環境温度	1~40℃	
用途	一般住宅浴室用	

取り付け前に

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2~0.3MPa程度に減圧してください。快適に水栓をお使いいただくためには、0.2~0.3MPa程度の圧力をおすすめします。
- 誤操作などによるやけど防止のため、給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。また、湯側を加圧する場合でも、必ず湯側圧力を水側より低くしてください。
- 給湯温度は、使用する吐水温度より高めに設定してください。
- 快適なシャワー流量・温度を得るためには、給湯機の給湯温度は60℃設定をおすすめします。やけど防止のため、60℃を超えない設定をしてください。
- 給湯機からの給湯管は、抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。
- 梱包前に通水検査をしていますので、商品内に水が残っている可能性があります。商品には問題ありません。
- シャワーバーを取り付ける壁に十分な強度があることを確認してください。(施工手順 6-4 - 5 を参照してください)
- 固定方法は建物の構造に応じて適切な方法を選んでください。

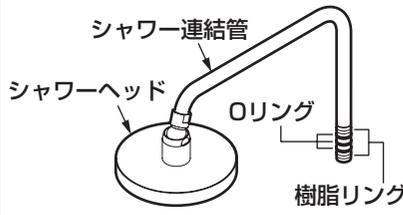
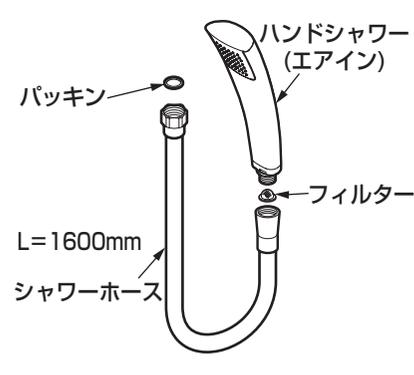
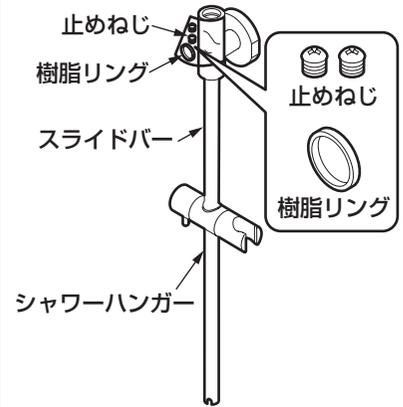
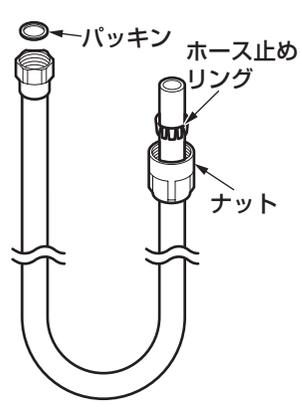
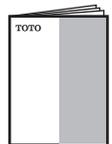
<シャワーバー後付タイプ(TMGG95EC1型)の場合>

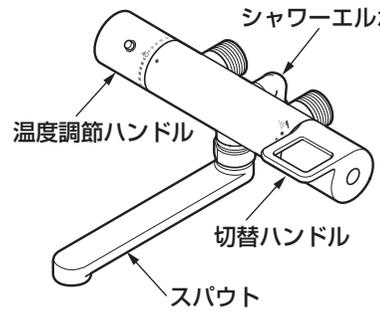
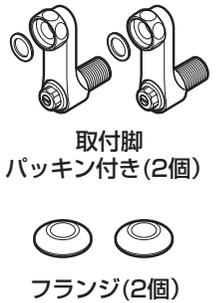
- 組み合わせる水栓本体はサーモスタット式を使用してください。
- 組み合わせる水栓本体が他社製の場合、別売りの接続用アダプターを準備してください。(5 参照)

5

部品の確認

次の部品があることを確認してください。

共通		
オーバーヘッドシャワー部 	ハンドシャワー・ホース部 	シャワーハンガー 
切替本体部 		
スライドバー 	接続ホース(水栓～切替弁本体) 	固定金具・ビス他 
その他 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">  取扱説明書 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>必ずお客様にお渡しください</p>  使いかたラベル </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  施工説明書 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  位置決めシート </div> </div>		

TMGG95EC型の場合	
水栓本体部 	
	

別売り (オプション品を準備しております。必要に応じて準備ください)

●TMGG95EC1型(水栓なしタイプ)を他社の水栓に取り付ける場合、下記接続用のアダプターをご利用ください。

メーカー	品番	形状
INAX,MYM, KAKUDAI, SAN-EI	THY14533-1	
KVK	THY14533-2	

●さし湯などで高温の湯をお使いになる場合、ハイカット弁(下記)をご用意しています。

名称	品番	形状
ハイカット弁	THD10	

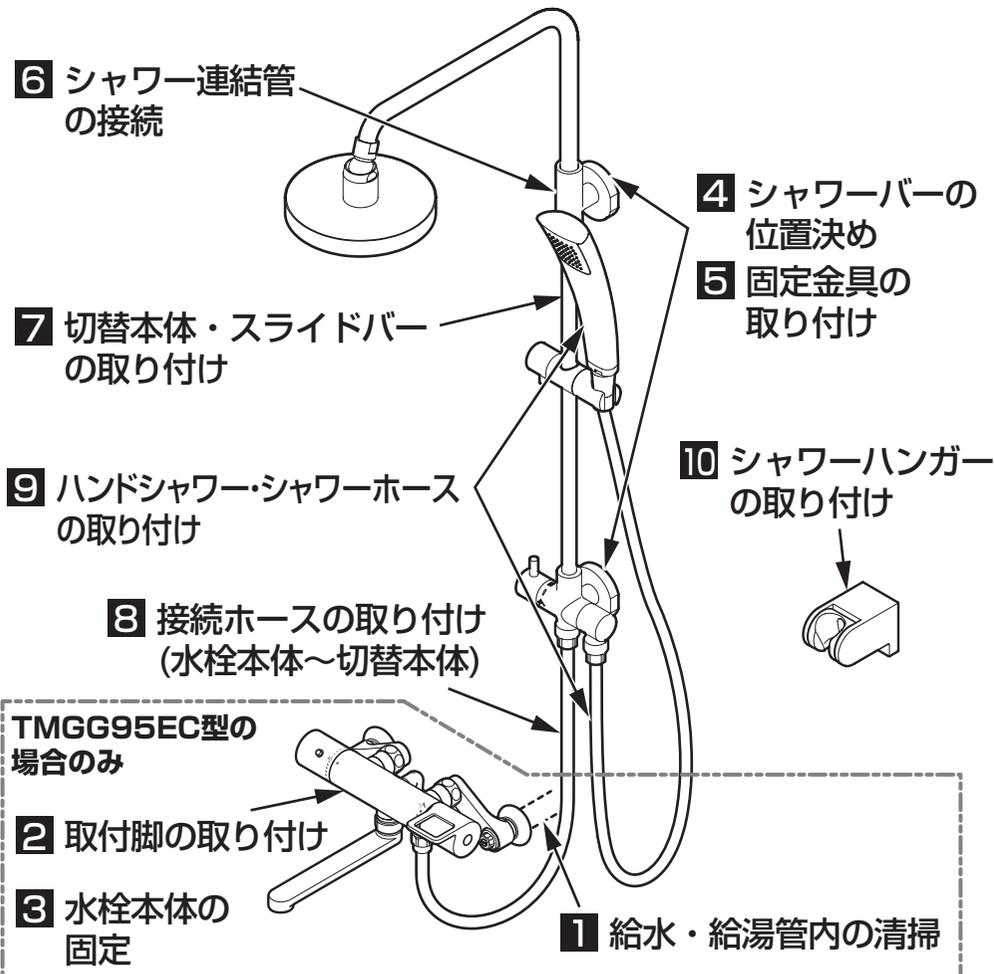
シャワー吐水時に高温の湯(約50℃以上)を出そうとすると瞬時に流量を絞ります。小さなお子様やお年寄りがいるご家庭におすすめです。

※品番によっては図と現品の形状が一部異なります。

6-1

施工手順

品番により施工手順が異なります。
 TMGG95EC型の場合 → **1** へ
 TMGG95EC1型の場合 → **4** へ



1 給水・給湯管内の清掃

取り付ける前に **必ず給水・給湯管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

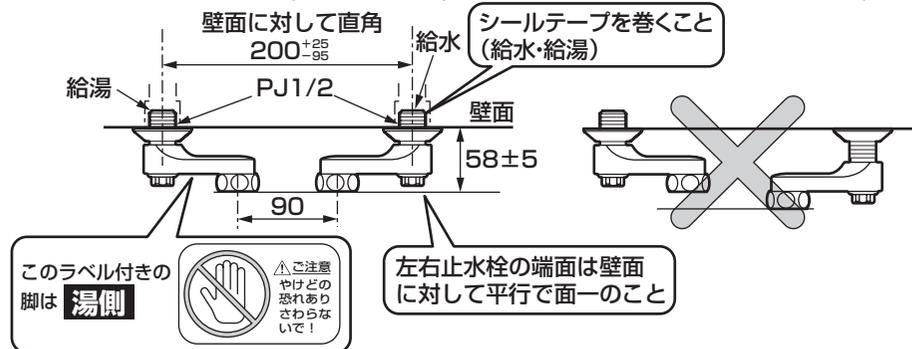
重要

2 取付脚の取り付け

(TMGG95EC1型(水栓なしタイプ)の場合、水栓本体に付属の説明書に従い、正しく取り付けてください。組み合わせる水栓はサーモスタット式をご使用ください。)

取付脚を取り付ける。(給水・給湯側)

(単位：mm)



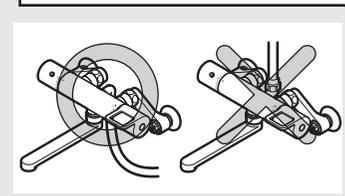
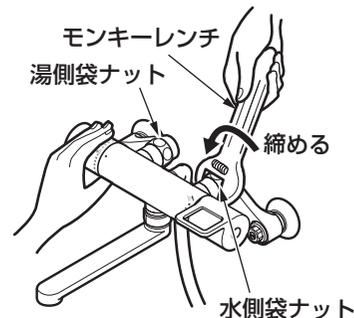
3 水栓本体の固定

(TMGG95EC1型(水栓なしタイプ)の場合、水栓本体に付属の説明書に従い、正しく取り付けてください。組み合わせる水栓はサーモスタット式をご使用ください。)

- ① 水栓本体を取付脚に取り付ける。
- ② 水平になるように調節しながら、湯側・水側の袋ナットを交互に締め付ける。

注意

- ゆるみがないようにしっかり締めてください。袋ナットが確実に締め付けられていないと、本体が傾いたり水が漏れることがあります。
- 取付脚は回さないでください。配管との接続がゆるみ水漏れのおそれがあります。
- パッキンが入っていることを確認してください。パッキンが入っていないと水漏れのおそれがあります。
- (シャワー金具の場合) シャワーホースを取付脚の下から取り出してください。上から取り出した場合、ホースの折れや破損のおそれがあります。



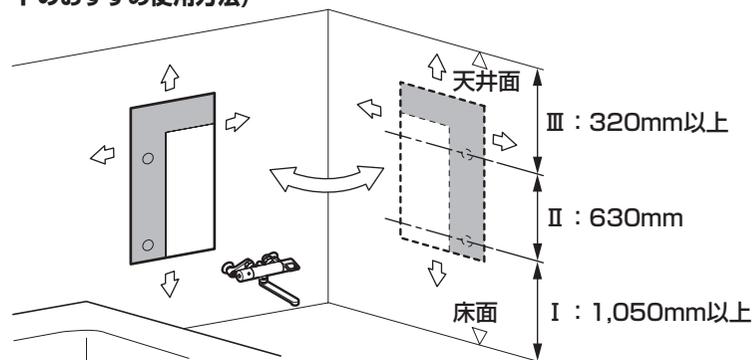
4-1 シャワーバーの位置決め

お客様とご相談のうえ、取付位置を決めてください。

取付位置の確認、および周囲の器具(鏡や照明など)との取り合いと使い勝手確認のため、「位置決めシート」も同梱しております。

本説明書とあわせてご確認いただき、位置決め・取付作業にお役立てください。

(位置決めシートのおすすめ使用方法)



- 浴室内の壁に位置決めシートをあて、シャワーバーの寸法を確認しながら、取り付ける壁を決める。(「位置決めシート」のグレーの範囲には、壁パネルのジョイント部*1がかからないこと、また、周囲の器具[照明・鏡など]にかからないよう位置を決める) [*1：ユニットバス・システムバスの場合]

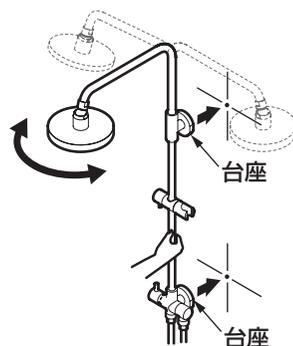
- 取り付ける位置が決まったら、上図のように、

I：床から1,050mm以上*2

II：Iから630mmの位置をけがく(ただしⅢ：320mm以上確保すること)

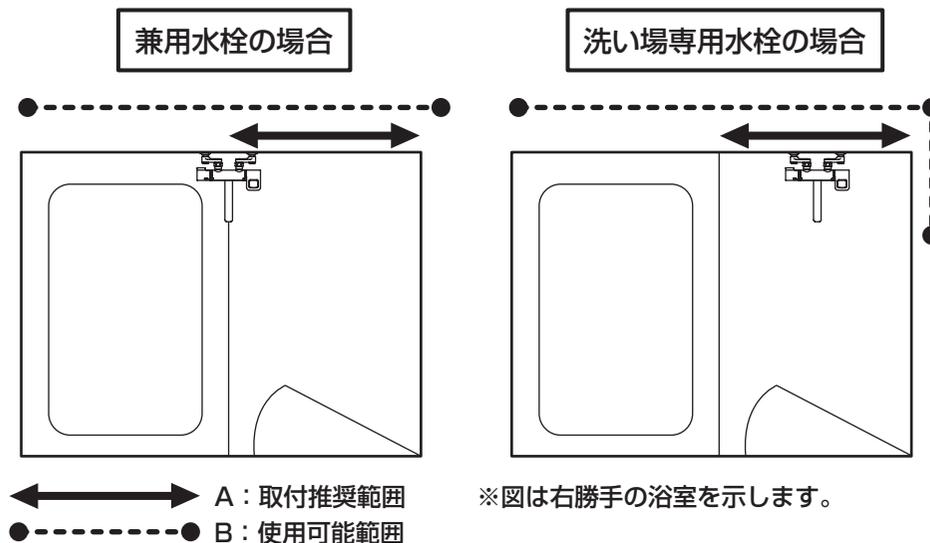
(*2：天井高さに余裕があれば、Ⅲ：320mm以上となるよう、お客様のお好みで高さを上げて良い)

- シャワーバー(切替本体・スライドバー・オーバーヘッドシャワー部)を仮組みし[本説明書 6.4-6 参照]、上記でけがいた位置に台座をあわせ、オーバーヘッドシャワーの可動範囲と使い勝手を確認する。



- 以上の作業で取付位置が決まったら、本説明書 6.4-5.1 に従い、下穴をあける。

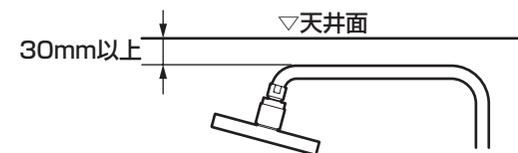
- ①下図AまたはBの範囲でシャワーバーの取付位置を決める。



- シャワーバーは、水栓本体近くに取り付けてください。水栓本体から離れすぎると、使い勝手が悪くなったり、ホースにつまずいたりするおそれがありますので、事前にご確認ください。
- オーバーヘッドシャワーは左右に回して(首振り)お好みの位置でお使いいただけますが、周囲の照明や壁などにぶつけないようご注意ください。

- ②(注意) 下記のスペースを確保してください。

- 天井面から30mm以上確保してください。天井面との間で指を挟むおそれがあります。



5-1 固定金具の取り付け

固定金具の取付方法は取り付ける壁によって異なります。下記に従って取り付けてください。

注意

- 正しいサイズのドリルをお使いください。
下穴径が大きすぎると、芯振れを起こして正しい固定ができないことがあります。また下穴径が小さすぎると、タイル割れをおこすおそれがあります。
- 各壁材に応じて、適切な材質のドリルを使用してください。
- 穴あけ後は、下穴にシール材を必ず充填してください。
- 下表に従い、壁材に応じた正しい長さのねじを同梱部品よりお選びください。
- 新築に取り付ける場合は、壁裏に30mm以上の厚みのある補強材を柱または間柱に固定して、その補強材に取り付けてください。

<浴室壁材ごとの下穴径と必要数>

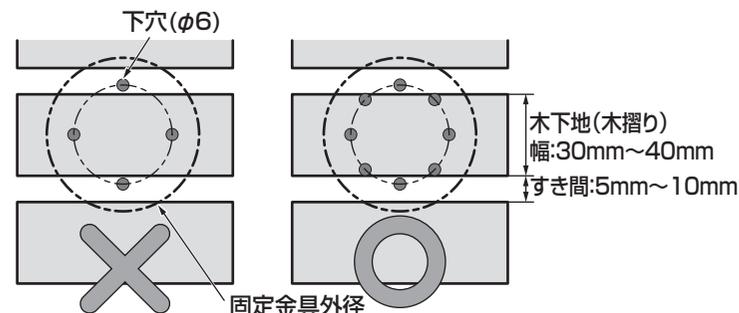
		下穴径 (mm)	深さ (mm)	穴数 ※1	使用ねじ他(同梱)	
					樹脂プラグ	使用ねじ
在来工法浴室	木下地	φ6	20 (タイル・ モルタルのみ)	4~8 ※2	要	座金付き タッピンねじ φ4.5×45(長)
	コンクリート下地		50	4		
システムバス ユニットバス	鋼板壁 厚さ0.4mm 以上	φ3.5	— (貫通穴)	8	不要	座金付きタッピンねじ φ4.5×20(短)

※1：固定金具1個あたり

(※2) 1カ所あたり下穴数(木下地の場合)

※2：木下地に4本以上ねじがかかるよう、現場にて調整ください。(下記)

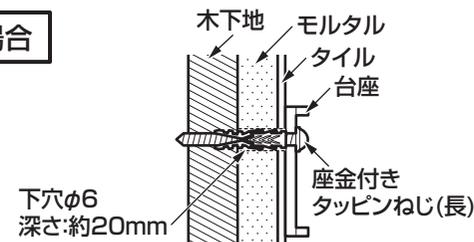
木下地の場合は、**下地に座金付きタッピンねじが4本以上かかるように**ねじ本数を調整してください。



※鋼板壁以外のユニットバス・システムバス(タイル・プラスチック・大理石など)には取り付けできません。

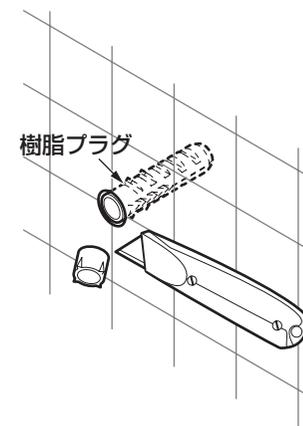
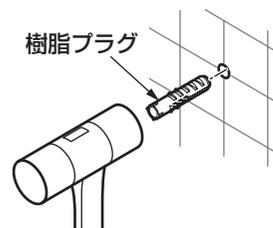
<在来工法浴室の場合>

木下地の場合

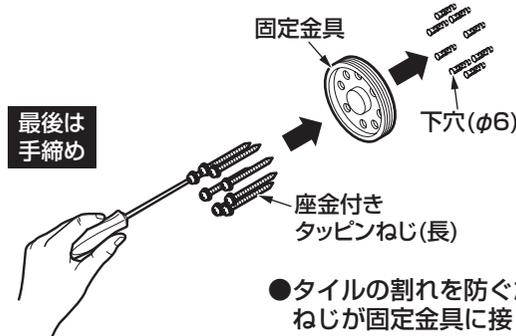


- ①φ6mm・深さ20mmの下穴をあける。(上下とも4~8個)
前ページの表に従い、上下とも木下地にねじが4本以上かかるよう、ねじ本数を調整してください。
タイル・モルタル部のみ下穴をあけ、木下地の手前で止めてください。(深さ20mmが目安です)

- ②①であけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。
壁からはみ出した樹脂プラグは切り取ってください。



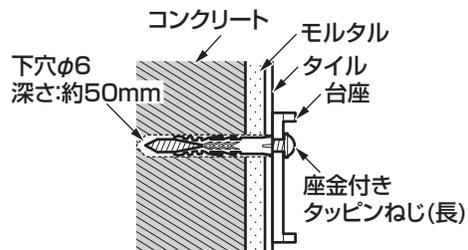
- ③シール剤を充填したあと、固定金具を図のように取り付ける。(上下2カ所)



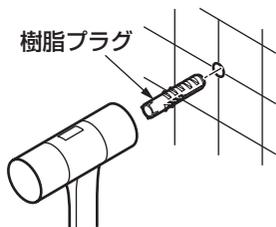
- タイルの割れを防ぐため、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に接して半回転以上締め込まないこと。
※タイルが割れたりするとガタついたり、外れたりして使用される方がけがをするおそれがあります。

5-2 固定金具の取り付け(つづき)

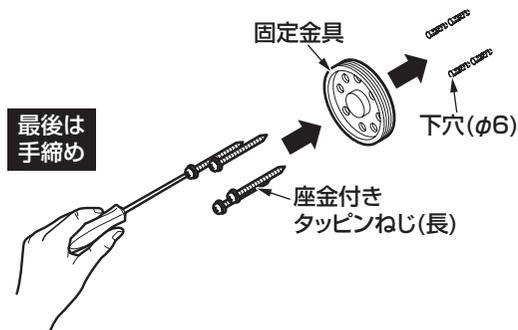
コンクリート下地の場合



- ① φ6mm・深さ50mmの下穴をあける。(上下とも4個)
- ②①であけた下穴に樹脂プラグを軽く打ち込む。



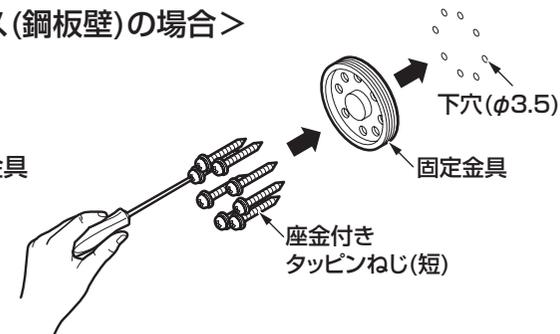
- ③ シール剤を充填したあと、固定金具を図のように取り付ける。(上下2カ所)
- タイルの割れを防ぐため、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に接して半回転以上締め込まないこと。
※ タイルが割れたりするとガタついたり、外れたりして使用される方がけがをするおそれがあります。



<ユニットバス・システムバス(鋼板壁)の場合>

- ① φ3.5mmの下穴をあける。(上下とも8個)
- ② シール剤を充填したあと、固定金具を図のように取り付ける。

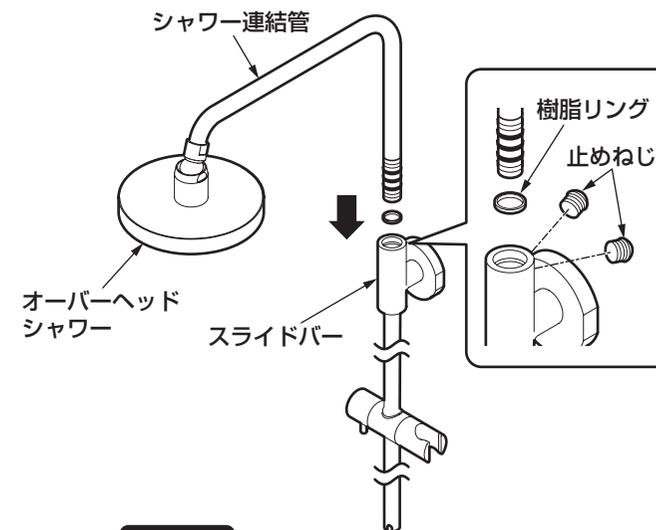
最後は手締め



- ねじを空転させないよう、最後の締め付けは手締めで行い、ねじが固定金具に接して半回転以上締め込まないこと。
※ ねじを空転させるとガタついたり、外れたりして使用される方がけがをするおそれがあります。

6 シャワー連結管の接続

スライドバー接続部に同梱の樹脂リングを入れ、オーバーヘッドシャワーの連結管を差し込み、同梱の止めねじ(2個)を後ろから確実に取り付ける。



注意

- 必ず樹脂リングが入っていることを確認してください。
- 止めねじ(2個)を確実に取り付けてください。
シャワー連結管が外れて落下するおそれがあります。

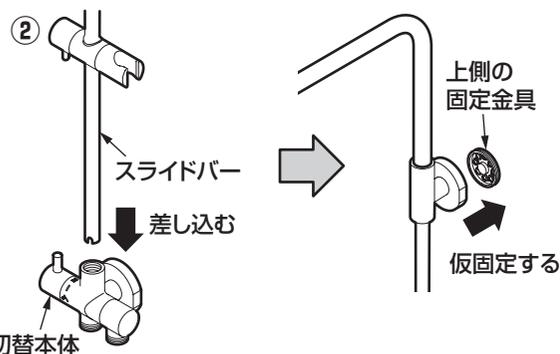
7 切替本体・スライドバーの取り付け

5 で壁に取り付けた固定金具(下)にスライドバー・切替本体を固定する。

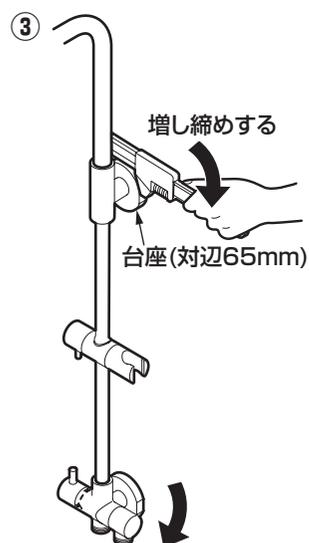
①切替本体の台座を下側の固定金具に仮固定する。



②①切替本体の上部取付口にスライドバーの下端を差し込み、台座部を固定金具(上)に仮固定する。

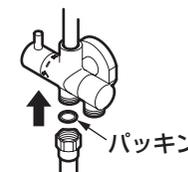


③上下の台座を増し締めし固定する。ゆるみがないよう、工具でしっかりと固定してください。



8 接続ホースの取り付け(水栓本体～切替本体)

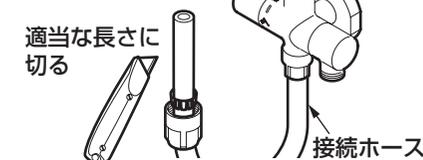
①接続ホースを切替本体の左側ねじ部にねじ込む。



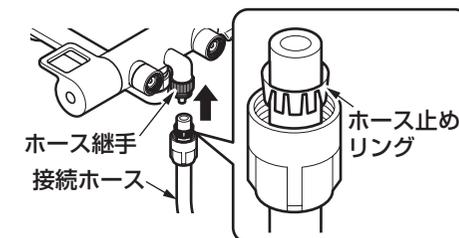
②水栓本体のシャワーエルボにホース継手をねじ込む。



③浴室のレイアウトにあわせ、接続ホースを適当な長さに切る。

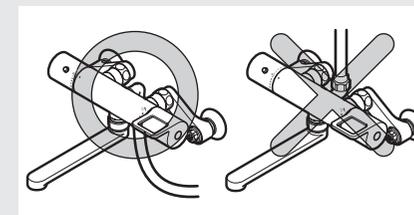


④接続ホースにナットとホース止めリングを差し込み、図のように取り付ける。(ホース止めリングの向きにご注意ください)



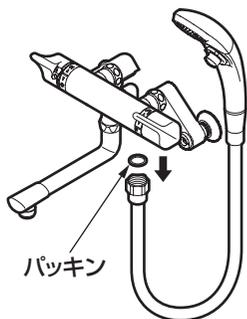
注意

- パッキンが入っていることを確認してください。
- 接続ホースを水栓本体の下から取り出してください。
上から取り出した場合、ホースの折れや破損のおそれがあります。
- 接続ホースをカットする際はななめにならないよう、直角にカットしてください。
斜めにカットした場合、十分に差し込めず接続部より水漏れするおそれがあります。
- ホース継手、ナットは手締めでしっかり締めてください。
ホース継手、ナットが確実に締め付けられていないと、水漏れするおそれがあります。



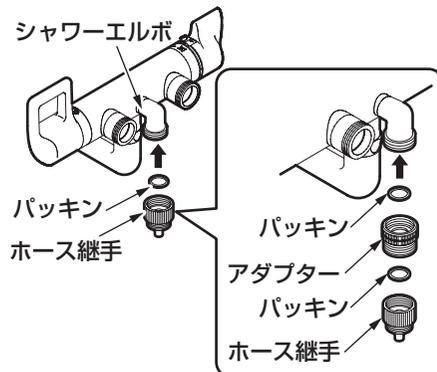
TMGG95EC1型(水栓なしタイプ)の場合

①現在お使いの水栓本体からシャワーホースを取り外す。

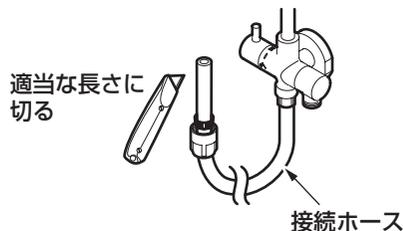


②水栓本体のシャワーエルボにホース継手をねじ込む。
※他社の水栓にもお取り付けいただけるよう、アダプター(別売り)を準備しています。水栓メーカーをお確かめのうえ、別途ご準備ください。

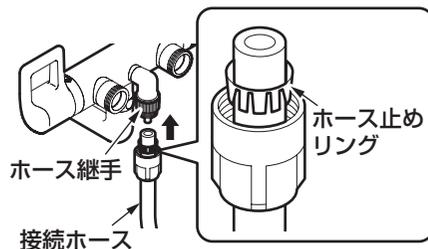
メーカー	品番
INAX,MYM, KAKUDAI, SAN-EI	THY14533-1
KVK	THY14533-2



③浴室のレイアウトにあわせ、接続ホースを適当な長さに切る。



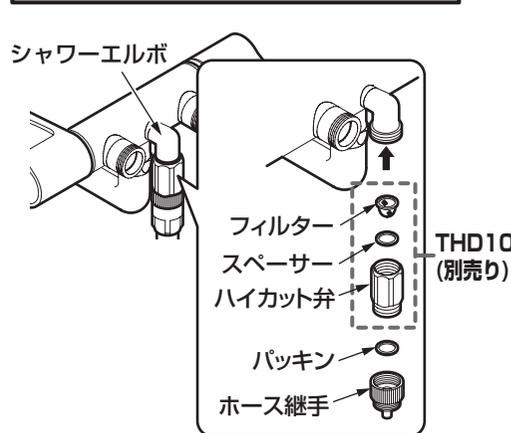
④接続ホースにナットとホース止めリングを差し込み、前ページの図のように取り付ける。(ホース止めリングの向きにご注意ください)



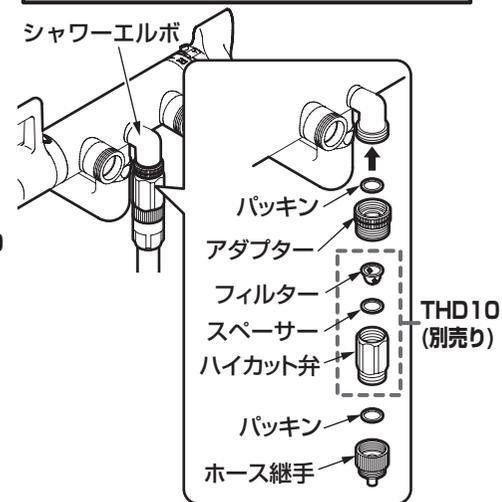
ハイカット弁(THD10)を取り付ける場合

ハイカット弁を取り付ける場合は、下図の要領にてお取り付けください。
※前ページに記載のアダプター(別売り)を使うと他社の水栓にもハイカット弁がお取り付けいただけます。水栓メーカーをお確かめのうえ、別途ご準備ください。

TOTO水栓金具に取り付ける場合



他社の水栓金具に取り付ける場合

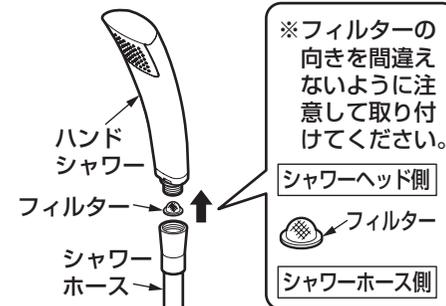
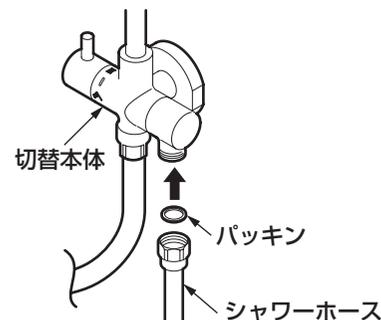


9 ハンドシャワー・シャワーホースの取り付け

シャワーホースを切替本体に取り付ける。
ハンドシャワーをシャワーホースに取り付ける。

注意

フィルター・パッキンが入っていることを確認してください。

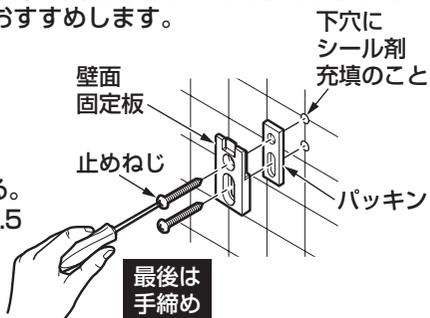


10 シャワーハンガーの取り付け

同梱のハンドシャワー(エアインシャワー)を従来のシャワーハンガーにセットすると散水角度が変わったり、また他社ハンガーでは十分に固定できない場合がありますので、同梱のシャワーハンガーへのお取り替えをおすすめします。

●壁面固定板の取り付け

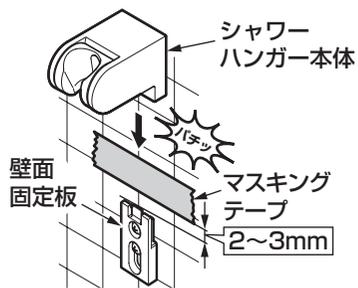
- ①取り替える方のシャワーハンガーを取り外す。
- ②下穴に、シール剤を充填する。
 - 在来工法浴室の場合：下穴径φ6
 - ※樹脂プラグを入れ替えて、シール剤を充填する。
 - ユニットバス・システムバスの場合：下穴径φ3.5
- ③パッキンを壁面固定板の裏面に貼る。
- ④同梱の止めねじにて壁面固定板を固定する。



- ねじの空転防止およびタイルの割れを防ぐため、止めねじの最後の締め付けは手締めで行い、ねじが壁面固定板に接して半回転以上締め込まないこと。
- ※ねじを空転させたり、タイルが割れたりするとガタついたり、外れたりして使用される方がけがをすることがあります。

●シャワーハンガー本体の取り付け

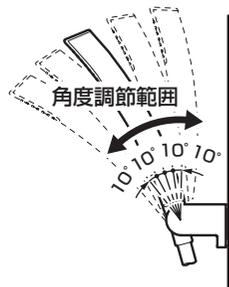
- ①壁面固定板上端から2~3mm上にマスキングテープを貼る。
- ②シャワーハンガー本体を上から壁面固定板にあわせて、「パチッ」と音がするまで押し込む。



注意

壁面固定板上端から2~3mm上にマスキングテープを貼ったあとにシャワーハンガー本体を押し込んでください。壁に傷を付けるおそれがあります。

- ③シャワーヘッドを確実にセットして、角度調節範囲を動かし、ガタツキがないか確認する。



※シャワーヘッドの角度によっては、水を止めたときに水垂れする場合があります。その場合は角度を調節してください。

※シャワーの吐水量を調節してご使用ください。シャワー吐水量が多すぎると、シャワーの勢いで角度が変わったり、ハンドシャワーが外れたりすることがあります。

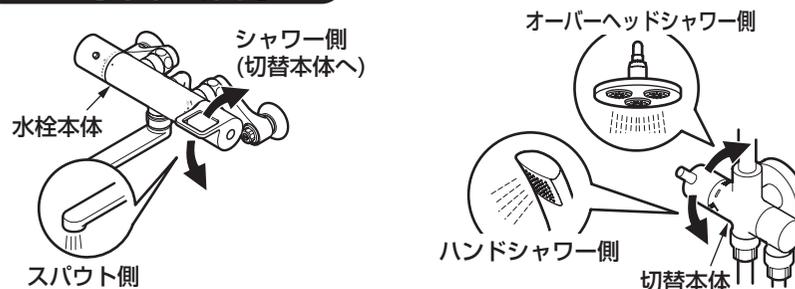
施工後の調節

取り付けが完了したあと、配管部の元栓を開け、以下の要領で確認・調整を行ってください。

水栓なしタイプ(TMGG95EC1型)の場合は、水栓本体の説明書とあわせてご確認のうえ、同様の確認・調整を行ってください。(本体の調整方法・操作する箇所はメーカー・機種により異なります)

※なお、他社水栓の調整・修理はTOTOではお受けできませんので、メーカーをご確認のうえ、各水栓メーカーへお問い合わせください。

1.水出し確認

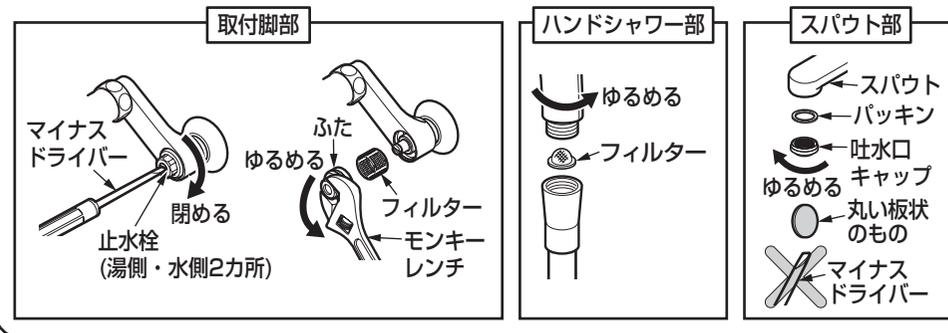


2.フィルターおよび吐水口キャップの掃除

取り付け後は必ずフィルターおよび吐水口キャップを掃除してください。フィルターや吐水口キャップが詰まると流量が少なくなったり、水または熱湯しか出なくなるなど、十分な機能が発揮されなくなります。また、お客様にも時々掃除していただくようにご説明願います。

※フィルターを掃除する際は、止水栓を閉め、フィルターを外してください。また、本体左側および湯側給水脚部が熱くないことを確認してください。(詳しくは、取扱説明書の「日ごろのお手入れ」を参照してください)

※吐水口キャップを取り外すときは、**マイナスドライバー**など先の細いものは**使わない**でください。



3. 流量の調節

切替ハンドル全開時の流量が多すぎる場合などは、次の要領で**止水栓**を調節してください。

1. 切替本体のレバーハンドルを正面(ハンドシャワー側)に切り替える。



2. 温度調節ハンドルを下(水側)いっぱい回し、切替ハンドル(水栓本体)を上いっぱい回す。



ハンドシャワーから水が出ます。

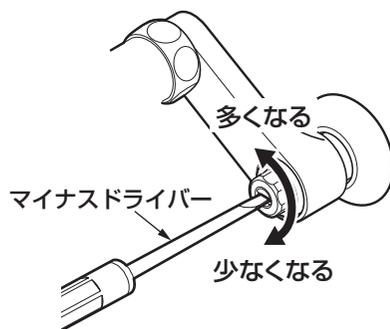
3. 流量が12L/分程度(洗面器一杯にするのに約20秒弱)になるように水側止水栓で調節する。



洗面器一杯
約20秒

時計回りに回すと流量が少なくなり、反時計回りに回すと多くなります。

4. 安全ボタンを押しながら、温度調節ハンドルを上(湯側)いっぱい回し、3.と同じように湯側止水栓で流量を調節する。



多くなる

少なくなる

警告



必ず実行

湯側の調節を行うときは十分に注意する

熱湯が出て、やけどをするおそれがあります。

4. 吐水温度の確認

温度調節ハンドルは工場で設定していますが使用条件(給水・給湯圧力、給湯温度)が異なると、表示どおりの吐水温度にならないことがあります。吐水温度が表示どおりにになっているか以下の要領で確かめてください。

1. 給湯機の設定温度は希望の吐水温度より高めに設定する。

温度調節ハンドルは目盛り"40"の位置で40℃の湯を吐水させるためには、給湯機の温度設定を40℃より高めに設定してください。快適なシャワー流量・温度を得るためには、60℃に設定することをおすすめします。

給湯機の設定温度は高めに



2. 温度調節ハンドルの目盛り"40"をポイントにあわせる。

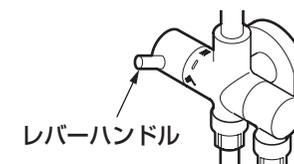
ハンドシャワーから水が出ます。



3. 切替本体のレバーハンドルを正面(ハンドシャワー側)に切り替える。

4. 切替ハンドルを上いっぱい回す。

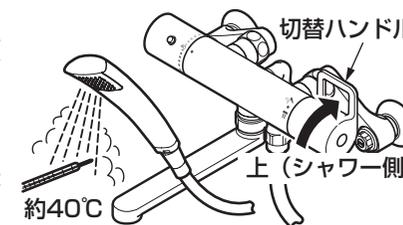
ハンドシャワーから水が出ます。



5. 吐水温度を確認する。

吐水温度が約40℃であればそのままご使用ください。

温度が低い場合は、40℃の湯が出るまで給湯機の設定温度を上げてください。給湯機を50℃以上に設定しても温度が低い場合はハンドル設定が必要です。



豆知識

当商品は安全のため、熱湯が出ない構造となっています。(温度調節ハンドルの設定を正しく行った場合、吐水可能な最高温度は約45℃です)



注意

エアインシャワーの場合、シャワーを止めたあと、一般シャワーヘッドとは異なり、シャワーヘッド根元にある吸気口より水が排出されます。故障ではありません。

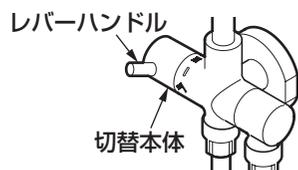


5. 温度調節ハンドルの設定

※吐水温度が表示どおりになっていないときに行ってください。
TOTOメンテナンス(株)においてもハンドル設定を承りますが有料作業となります。

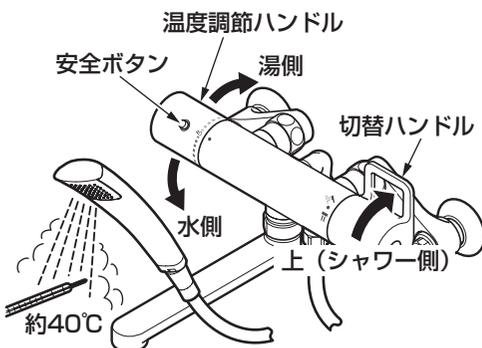
TMGG95EC型のみ

1. 切替本体のレバーハンドルを正面(ハンドシャワー側)に切り替える。



2. 水栓本体の切替ハンドルを上いっぱい回す。

ハンドシャワーから水が出ます。

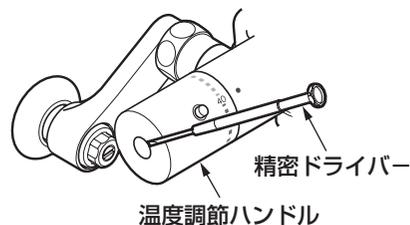


3. 温度調節ハンドルを目盛りに関係なく適温(約40°C)の湯が出る位置まで回す。

温度調節ハンドルは目盛り"40"を超えた付近でロックされますので、これより高温の湯を出したいときは、安全ボタンを押しながら回してください。

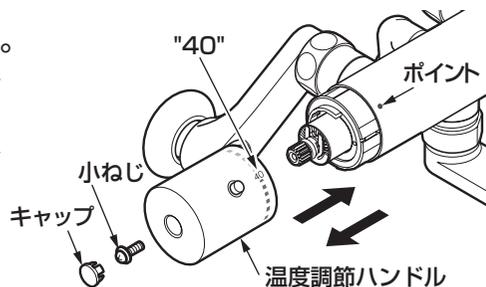
4. 温度調節ハンドルを外す。

温度調節ハンドルが回らないように注意してキャップ・小ねじを外してハンドルを抜き取ってください。



5. 温度調節ハンドルを取り付ける。

目盛り"40"の文字とポイントをあわせて温度調節ハンドルをはめ込み、小ねじで固定してキャップを取り付けてください。

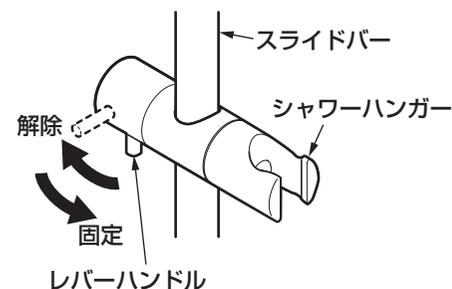


6. 固定後に適温(約40°C)の湯が出ているか確認する。

6. シャワーハンガーの高さ調整

レバーハンドルを上に戻すと固定が解除されます。

シャワーハンガーを上下に移動し、レバーハンドルを下に戻すとシャワーハンガーがスライドバーに固定されます。



レバーを解除すると、重さによってシャワーハンガーが急に落下することがありますので、手を添えながらレバーを解除してください。

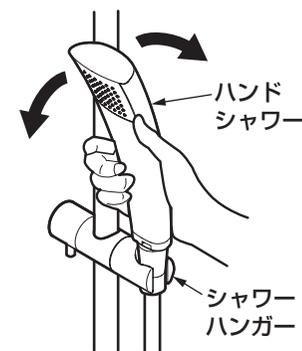
7. シャワーハンガーの角度調節

ハンドシャワーを差したまま、シャワーハンガーを好みの角度に回転させ、シャワーの散水角度を調節してください。

※角度によっては、ハンドルを閉めても、水が止まるまで時間がかかります。

※シャワーヘッドの角度によっては、水を止めたときに水垂れする場合があります。その場合は角度を調節してください。

※シャワーヘッドの流量を調節してご使用ください。シャワーヘッドの流量が多すぎると、シャワーの勢いで角度が変わったり、シャワーヘッドが外れたりすることがあります。



取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。

水栓なしタイプ(TMGG95EC1型)の場合は、水栓本体の説明書とあわせてご確認のうえ、同様の確認・調整を行ってください。

(本体の調整方法・操作する箇所はメーカー・機種により異なります)

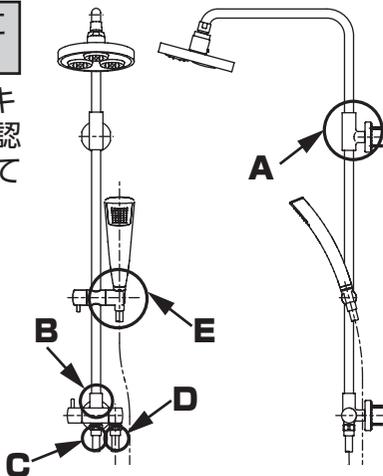
※なお、他社水栓の調整・修理はTOTOメンテナンスではお受けできませんので、メーカーをご確認のうえ、各水栓メーカーへお問い合わせください。

水漏れの確認

水漏れがないか確認してください。

A・B・C・D・Eに
水漏れがある場合

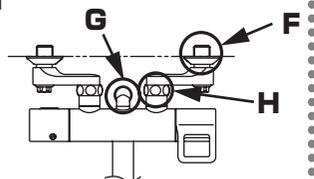
Oリングまたはパッキンが入っているか確認後、再度、取り付けてください。



TMGG95EC型の場合

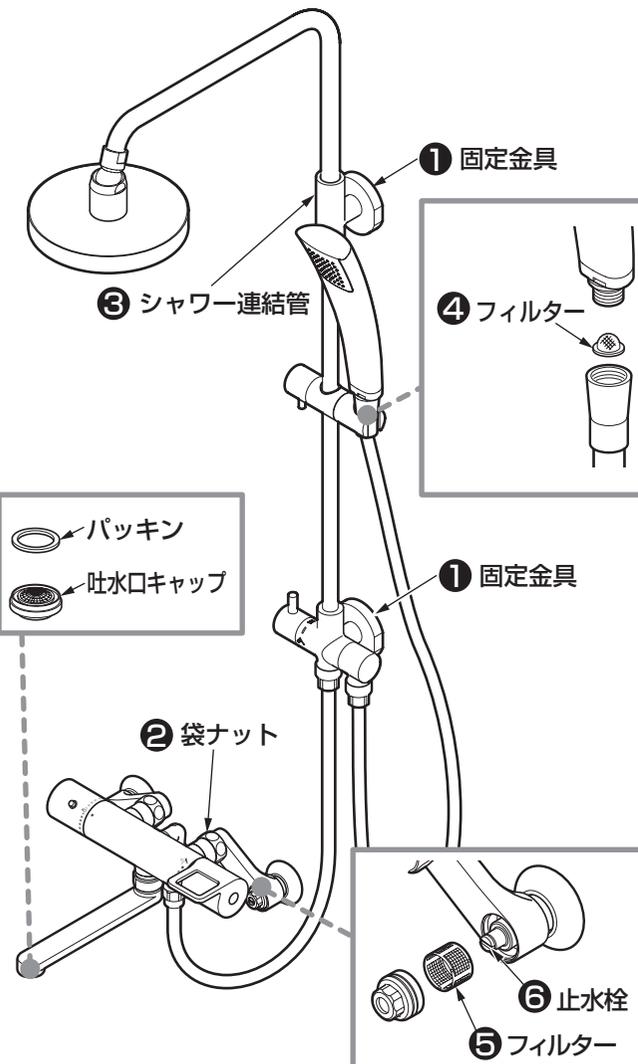
Fに水漏れがある場合

配管に腐食・ひび割れなどが無いことを確認のうえ、再度シールテープを巻き、取り付け直してください。



G・Hに水漏れがある場合

パッキンが入っているか確認後、再度、取り付けてください。



ガタツキの確認

ガタツキがないか確認してください。

1 固定金具のガタツキはないですか？

➡ **6-4** - **5**「固定金具の取り付け」参照
➡ **6-6** - **7**「切替本体・スライドバーの取り付け」参照

TMGG95EC型の場合

2 袋ナットのゆるみはないですか？

➡ **6-1** - **3**「水栓本体の固定」参照

3 シャワー連結管のガタツキはないですか？

➡ **6-5** - **6**「シャワー連結管の接続」参照

流量および吐水温度の確認

流量が少ないときや、温度調節がうまくできない場合は、次の項目を確認してください。

4 フィルターのごみ詰まりはないですか？

➡ **7-1** **2.フィルター**の掃除 参照

TMGG95EC型の場合

5 フィルターのごみ詰まりはないですか？

➡ **7-1** **2.フィルター**の掃除 参照

6 止水栓は開いていますか？

➡ **7-2** **3.流量の調節** 参照

接続部の確認

⚠ 注意



必ず実行

スライドバー接続部に止めねじ（2カ所）が取り付けられていることを確認し、シャワー連結管を上方向に引っ張り、スライドバー接続部から抜けないことを確認する

止めねじの取り付け忘れがある場合

➡ 6-5 - 6 「シャワー連結管の接続」 参照

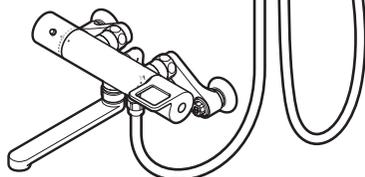
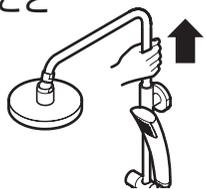
シャワー連結管

スライドバー接続部

止めねじ

後ろから見た図

上方向に引っ張り、スライドバー接続部から抜けないこと



寒冷地でお使いの場合 (TMGG95EC1型のみ)

TMGG95EC1型(水栓なしタイプ)

凍結が予想される地域や凍結の可能性のある場所に設置する場合は、寒冷地仕様の水栓とセットでお使いください。(水栓本体はサーモスタット式をご使用ください)

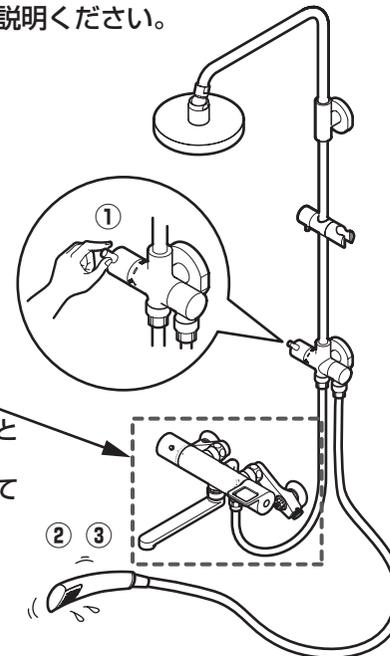
・ 下記の手順でシャワーバーの水抜きを行うことができます(①～③)

- ① 切替本体のレバーハンドル(オーバーヘッドシャワー/ハンドシャワー)を中間位置で止める。
- ② ハンドシャワーを床近くに下げ、ホース内の水を抜く。
- ③ ハンドシャワーを振って中の水を抜く。

(①～③で、シャワーバーの水抜き作業は完了です)

(④水栓本体の水抜きは本体の説明書にしたがってください)

・ お客様にも水抜き方法をご説明ください。



水栓本体(別売り)
必ず寒冷地仕様のこと
水抜き手順は水栓に
付属の説明書に従って
ください。

※ 同梱の取扱説明書などは、必ずお客様にお渡しください。